

令和5年度 学校評価アンケート 結果報告

■:そう思う ■:どちらかといえばそう思う ■:どちらかといえばそう思わない ■:そう思わない

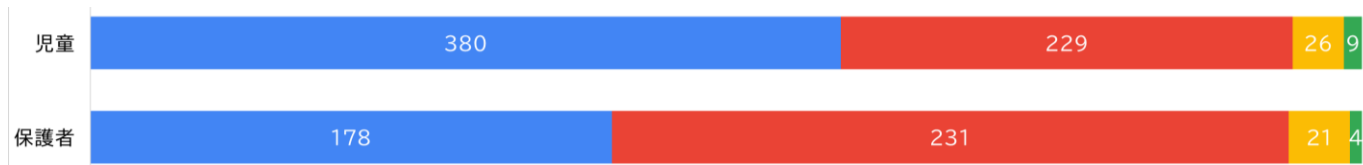
1、お子さんは、学習の時間に、主体的に意欲をもって学習に取り組んだり、自分の考えをすすんで書いたり話したりしていると思われますか。



	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらかといえばそう思わない	4 そう思わない
児童	51%	37%	10%	2%
保護者	30%	48%	19%	2%

本校の児童はとてもまじめに学習に取り組むことができるので、全体的にみるとしっかり取り組んでいることがわかります。主体的に学ぶ姿を目指して、粘り強く取り組む力や自らの学習を調整する力を伸ばすことを意識し、深い学びにつなげていくように指導していきたいと考えています。

2、お子さんは、学校での様々な体験や学びを通して、思いやりや他者に対する優しい気持ちを(さらに)もてるようになったと思いますか。



	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらかといえばそう思わない	4 そう思わない
児童	59%	36%	4%	1%
保護者	41%	53%	5%	1%

様々な活動が平時に戻りつつあり、ペア学年での活動や授業における対話など児童同士の関わり合いが、より活発になっています。異学年との関わりを楽しんではいますが、まだ思いを伝え合うことは苦手になっている児童も見られます。引き続き活動の振り返り時間の確保と、道徳科・他教科との連携を図ることで、他者に対する優しい気持ちを醸成するなど学校全体で取り組んでいきます。

3、お子さんは、体育の時間、給食や保健の時間などで、自分の健康について意識したり、行動にうつしたりすることができていると思いますか。



	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらかといえばそう思わない	4 そう思わない
児童	54%	35%	10%	1%
保護者	32%	48%	16%	3%

給食時のぱくぱくだよりの放送、手洗い等感染予防の継続により、自分の健康について意識できていると答えた割合が多かったと考えられます。一方で今年度と昨年度の体力テストを比較すると、横ばい、もしくは下降傾向にある種目が多く見られました。このことから健康面についての意識と、体力面の意識について乖離があることが分かりました。来年度は体力の向上につながるような取り組みをもとに、主体的に運動に取り組む姿勢を育めるように支援していきます。

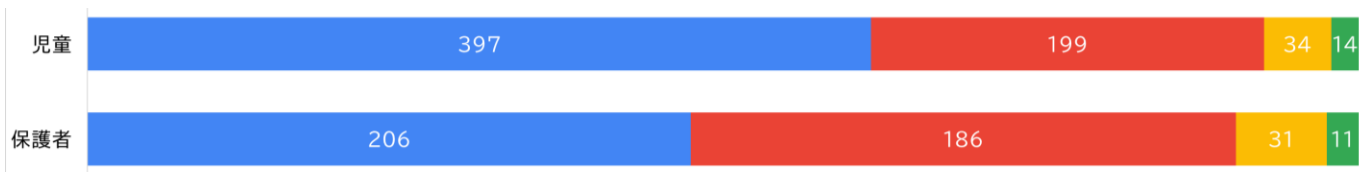
4 お子さんは、学習を通して、地域(人、こと、もの)とのつながりを実感することができていると思いますか。



	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらかといえばそう思わない	4 そう思わない
児童	51%	39%	7%	2%
保護者	33%	53%	10%	3%

児童も保護者も90パーセントくらいの高い割合で、地域とのつながりを実感できていると評価していただきました。児童の方が実際の授業を通して、地域とつながりをもっているのが、数値が高くなっているのだと思います。児童の話から、学習の後に地域の行事にも興味をもって参加したという声が聞こえてきました。学習を通してつながったことが、さらに地域と家庭とのつながりを強くしていることに結びついているのではないのでしょうか。これからも、地域とのつながりを大切にしていきたいと思います。

5、学校は、いじめはよくないことだと指導するとともに、定期的ないじめ調査や担任による児童との相談タイムの設定などを行っています。このような取り組みはお子さんが安心して学校に通うことの助けになっていると思いますか。



	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらかといえばそう思わない	4 そう思わない
児童	62%	31%	5%	2%
保護者	47%	43%	7%	3%

定期的ないじめ調査や担任による児童との相談タイムを設定したことで、いじめの早期発見につながったり、児童の安心感につながりすることができました。一方、児童よりも保護者の方が「そう思わない」と感じる方が多い傾向にあります。横浜子ども会議やピンクシャツデーなどの学校の取組を周知したり、学校と保護者間の連携を密にしたりして、児童の安心感につながる環境作りに努めていきたいと考えます。

6、学校は、地域の教育力を生かした授業を計画したり、家庭・地域の学校への参画を目指した活動に取り組んだりしていると思いますか。



	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらかといえばそう思わない	4 そう思わない
児童	73%	23%	3%	1%
保護者	38%	49%	11%	1%

今年度も昨年度に引き続き、地域ボランティアの方と連携してアドバイスをいただきながら、一緒に畑(しのファーム)の活動をしたり、農業に携わられている方と米作りを行ったりしました。また、妙蓮寺の商店会と連携し、実際にお店の体験を通してまちの魅力を探りました。子ども達は地域の方と協働して学ぶことに手ごたえを感じているようです。来年度は学んだことを地域に返していくことも視野に入れて、学びを深めていきたいと考えます。

7、学校は子ども一人ひとりの特性を理解し、適切な指導を行うよう心がけています。お子さんのことを理解し、適切な指導を行っていると思いますか。



	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらかといえばそう思わない	4 そう思わない
児童	58%	32%	8%	2%
保護者	31%	55%	10%	3%

概ね達成できていますが、児童の実感と保護者の感じ方に差が見られること、また理解されていないと感じている数パーセントの児童に寄り添うためにも、より一層全職員がチームとしてきめ細かく児童への支援を心がけ、保護者との連携をとる必要があると考えています。ダイバーシティ(多様性)推進は、これからの社会をつくっていくうえで忘れてはいけない視点です。多様な個性をもつ子どもたち一人ひとりをより理解し、保護者と同じ方向をむいて指導していけるように取り組んでいきます。

8、タブレット端末を学習等で活用するなどして、自分の考えを深め、工夫して表現しようとする力を伸ばそうと取り組んでいます。あなたのお子さんは、学習や生活の場面で自分の考えをすすんで表現しようとしていると思いますか。



	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらかといえばそう思わない	4 そう思わない
児童	46%	38%	12%	3%
保護者	29%	55%	15%	2%

本校の児童はタブレット端末を活用することがとても上手です。自分の考えをタブレット端末の中で表現する力も伸びてきています。しかし、「どちらかといえばそう思う」と考える割合が多いのは、考えを深めたり、工夫して表現したりするところまで意識が高まりきっていない点に、これからの課題があると考えます。また、その感覚に保護者との大きな違いは見られませんでした。しかし、「深い考え」や「工夫された表現」には、各々の理解の差があると思われるため、タブレット端末の活用に関して、保護者との情報共有は欠かさず行っていくことが大切であると考えます。

9、学校では、篠原小スタンダードを定め、学校生活のルールを共通して指導しています。お子さんは、篠原小スタンダードを理解し、ルールを守って生活していると思いますか。



	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらかといえばそう思わない	4 そう思わない
児童	56%	36%	6%	2%
保護者	38%	53%	6%	2%

篠原小スタンダードが共通理解のもと浸透していることが分かります。年度途中であっても、時代背景や児童のニーズに応じたルール改正や変更を行い、柔軟に対応してきました。教職員によるこまめなスタンダードの見直しはルールを守っていこうという意識につながる一つの理由と考えられます。

今後も様々な意見に耳を傾け、特に子どもたちの考えも反映しながら子どもたちが過ごしやすい学校づくりにさらにまい進していきます。